

令和 2 年 6 月 18 日現在

機関番号：32409

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2016～2019

課題番号：16K15906

研究課題名(和文) 補完代替医療におけるエネルギー療法「レイキ」のがん患者への活用モデルの構築

研究課題名(英文) Formulation for the Application of the Energy Therapy "Reiki" as Complementary and Alternative Medicine for Cancer Patient

研究代表者

杉山 智江 (Sugiyama, Tomoe)

埼玉医科大学・医学部・助教

研究者番号：50320693

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：「レイキ=霊気」は、臼井甕男(1865-1926)が開発し、海外に渡りReikiとして世界に広められたエネルギー療法の一つである。「レイキ」のがん患者への活用に関する国内外の文献検討を行った。国内(1996-2016)で「レイキ」のキーワードがあったのは36件であり、医療での活用や効果に関する記述は10件であった。国外(1961-2018)では「Reiki」「Cancer」をキーワードとし、がん患者に関する20件をレビューした。文献検討4件、RCT6件、アメリカ他3か国で研究されていた。医療機関をフィールドとした研究は12件であったが、Reikiの効果は明らかにされていなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「レイキ」は、臼井甕男(1865-1926)が開発し海外に渡りReikiとして世界に広められたエネルギー療法の一つであり、心身魂を癒し自己治癒力を高める。「レイキ」は非接触法でも施術でき、がん患者の身体的・精神的苦痛の緩和が期待できる。

国内文献では、国内の医療現場で「レイキ」を活用したという報告はなかった。一方、国外文献では、がん患者をはじめとした医療現場での「レイキ」の活用と効果に関する研究が多数あった。「痛み」や「不安」が軽減したと述べていたが「レイキ」の効果は明らかにされていなかった。今後は、日本でもエビデンスを提示して医療現場におけるがん患者への活用を可能にすることは意義がある。

研究成果の概要(英文)："Reiki = 霊気" was developed by Mikao Usui (1865-1926), is a type of energy therapy that spread to other countries, and has become widespread in the world as Reiki. An analysis of Japanese and foreign literature concerning the use of "Reiki" for cancer patients was conducted. 36 pieces of literature had the keyword "Reiki" in Japan (1996-2016), of which 10 described the use and effects in medical therapy. The keywords "Reiki" and "Cancer" were used to search for pieces of literature outside Japan (1961-2018), and 20 pieces of literature concerning cancer patients were reviewed. There was research in four literature analysis, six RCT, and three countries other than America. Research with a medical institution in the field had 12 pieces of literature, but the effects of Reiki were not clear.

研究分野：医学教育・看護

キーワード：レイキ エネルギー療法 補完代替医療 臼井甕男 がん患者 国内文献検討 国外文献検討 看護

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

海外(米国、英国、ドイツ、カナダ)では、がんセンターやがんセンターに併設されている補完代替療法センターやホスピスで日常的に補完代替医療が活用されている(ラリー2013,飯野2008)。米国では国民の健康を守るため1998年に米国国立補完代替医療センター(現国立補完統合衛生センター)が設立され科学的検証が行われている。「レイキ」による妊婦の疼痛緩和や化学療法後の苦痛の緩和が報告(Midilli 2014, Catlin 2011)されている。英国では1991年に英国保健省が「クリニックで補完代替医療の治療家の雇用費用は国の保険が適用」され多く活用されている。ドイツではホメオパシー等が積極的に利用され、補完代替医療について医師国家試験に出題されている(住吉2006)。

日本では、気功やレイキなどのエネルギー療法は施術者から高い振動数の波動が放出されるため自然治癒力に効果があると報告(鈴木2015,大西2010)されているが、「レイキ」に特化した臨床での活用や効果に関する報告は見当たらない。

「レイキ=霊気」は、臼井甕男(1865-1926)が鞍馬山で開発し、海外に渡り「Reiki」として世界に広められて日本に逆輸入されたヒーリングである。「レイキ」は心身魂を癒し自己治癒力を高めるとされている、手当療法の一つである。

某がん専門病院でがん患者へ手渡される「抗がん剤治療を受けられるあなたへ」の冊子の中には、補完代替療法の分類でエネルギー療法に「レイキ」が記載されていたため、医師と看護師に「レイキ」について尋ねたところ認知されていなかった。日本におけるがん患者への補完代替療法のエネルギー療法「レイキ」の活用とその効果を医療者へ提示する必要があると考えた。

そこで「補完代替医療におけるエネルギー療法(レイキ)のがん患者への活用モデルの構築」を目指して本研究に着手した。補完代替医療の活用モデルの構築は、がん患者の心身魂の苦痛を緩和し治療を継続するための一助となり、新たながん治療ケアの第一歩となることが本研究の狙いである。

2. 研究の目的

国内外の文献レビューを通して、がん患者への「レイキ」施術の実態と効果を明らかにすることを目的とする。

(1) 国内文献検討

過去20年間の国内文献から補完代替医療における「レイキ」の位置づけやがん患者への活用の実態について明らかにする。

(2) 国外文献検討

国外では補完代替療法のバイオフィールド療法の一つとしてレイキは位置づけられており、急性、慢性疾患に対する統合療法として広く活用されている。しかし、科学的根拠がないとされている。国外文献からがん患者に対する「レイキ」の活用や効果に関する研究方法について検討し、研究を概観し、科学的根拠がないとされる課題を明らかにするとともに、今後の研究への示唆を得る。

3. 研究の方法

(1) 国内文献検討

検索期間は過去20年間(1996-2016)とし、検索方法は医学中央雑誌 Web 版(Ver.5)と Google scholar を用いた。検索キーワードと検索式は以下の通りとした。論文の要旨や本文から「レイキ」に関する記述がある該当論文を選定し、本文を精読して「レイキ」に関する記述内容と件数を整理した。「レイキ」and「補完代替医療」; 原著論文のみ135件中1件、「レイキ」; 151件中31件、「エネルギー療法」; 会議録を除く27件中4件、「エネルギーヒーリング」; 会議録を除く7件中2件が該当文献であり、重複した2件を除き36件をレビュー対象とした。

(2) 国外文献検討

2018年4月に海外文献を電子検索した。Key words は「Reiki」「Cancer」で Pub Med(2017-1961)357件、Cochrane Register of Controlled Trials(All years)1件、EBSCO host(2017-2001)17件であった。検索された文献のうち abstract または本文から Reiki と Cancer に関連しない研究であると判断した文献、重複する文献、本文が入手できない文献や短報、方法の記載がない文献検討を除き20件をレビュー対象とした。

4. 研究成果

(1) 国内文献検討

「レイキ」の記述内容が確認できた36件(2000-2016)の内訳は、「レイキを中心に記述(5件)」「レイキに関する説明・記述(14件)」「レイキのキーワードのみ記載(17件)」であった。

「レイキを中心に記述」では、レイキの歴史や概説、技法、宗教との差別化、スピリチュアル等について社会学の分野から「ヒーリング技法(平野2016)」「スピリチュアル・ヒーリング(Justin 2015)」「手当療法(平野2011,寺石2008)」の4件、「米国のがん患者やエイズ患者への活用と効果、イギリスでの医師の同意による保険適用など欧米では医療現場で高い評価がある一方で、日本の医療現場ではそこまで至っていない(高木2008)」と述べている1件であった。

「レイキに関する説明・記述」では、医療現場での活用や効果に関する国外文献の引用があったのは4件であった。その内容は「レイキを受けた進行がんの患者は、コントロール群と比較して痛みの程度が軽く QOL も改善(鈴木2007,2015)」「イギリスのがん治療施設での活用や鎮静作用とストレス軽減作用、がん性疼痛や慢性疼痛に対して欧米の病院での活用、小児癌患者への統合治療プログラムとして提供、ハーバード大学の職員の健康管理に活用、看護師や理学療法士が

レイキを使える病院での股関節運動の痛みの緩和やリハビリテーション効率上昇、リラクゼーション効果、医療者自身の便秘や不眠の改善（市江 2013）、「ボストン小児病院での活用や心的外傷からの回復または PTSD の治療で活用が認められた（平塚 2008）」であった。他 10 件は「全米ホリスティックナース協会から選ばれたエネルギーヒーリングプログラム（Jane 2000）」、「米国での保険外適応、英国の国営医療サービスのプライマリーケアで用いられた相補・代替医療（小野 2009）」、「全米がん研究所がん患者教育ネットワークの議長が霊気療法師として患者を診ている（渡辺 2003）」、「歴史と米英独仏の医療で実践され米英の辞書に掲載（小林 2003）」、「宗教研究からみた臼井甕男が創始者である臼井式霊気療法という手のひら療治（塚田 2015, 吉永 2015）」、「スコットランドの女性に広まった民間療法（小松 2012）」、「レイキなどの遠隔ヒーリングの効果をみた実験研究（木戸 2006）」、「スピリチュアルイベントプログラム（橋迫 2008）」、「タイマッサージの教育課程で活用（小木 2014）」であった。

「レイキのキーワードのみ記載」では、「エネルギー療法（内田 2013, 田原 2010, 山田 2008, キム 2004, 大西 2010）」、「エネルギーヒーリング（Jane 2000, 中村 2004）」、「手かざしによるヒーリング（小久保 2012, 櫻村 2001）」の 9 件、「介護老人保健施設内のヒーリングサロンメニュー（高野 2010）」、「ヒーリングサロン（平野 2007）」の 2 件、「摂食障害のワークショップ（野村 2005）」、「妊婦講座（池川 2007）」の 2 件、「非接触ヒーリングとしての実験研究（小久保 2013）」、「レイキマスターとの出会い（永井 2014）」、「その他（島崎 2013, 鄭立儀 2013）」の 4 件であった。

医療現場での「レイキ」の活用や効果に関する記述は、国外文献の引用がほとんどであり、国内での「レイキ」の活用に関する研究結果はみられなかった。

（2）国外文献検討

20 件のうち 4 件は文献レビューであった。その内訳は、エネルギーセラピー/バイオフィールドセラピーのヒーリングタッチ、セラピューティックタッチ、Reiki を施術したときの症状緩和に焦点を当てた文献が 3 件であり、サンプルサイズについての文献が 1 件であった。

がん患者に対する「Reiki」の施術に関する研究 16 件の内訳は、アメリカ 7 件、イタリア 2 件、ブラジル、トルコが各 1 件、国名の記載がないものが 5 件であった。発表年別では、1997 年に「Reiki」に関する最初の症例報告が 1 件であり、その後 1999-2003 に 1 件、2004-2008 に 2 件、2009-2013 に 3 件、2014-2018 に 9 件であった。研究のフィールドは、病院やクリニックで行われていた研究が 12 件、ヨガクラスなどのコミュニティでの研究が 2 件、記載なしが 2 件であった。研究デザインは介入研究が 12 件、観察研究が 4 件であった。評価尺度として用いられているものは VAS、DT、GAD-7、GHQ-9、POMS などが多くみられた。

「Reiki」の施術により疼痛と不安が軽減または減少したが 5 件（Tsang 2007, Birocco 2012, Fleisher 2014, Rosenbaum 2016, Susan 2017）、疼痛が軽減したが 3 件（Olson 2003, Demir 2015, Siegel 2016）、不安が軽減したが 2 件（Beard 2011, Vergo 2018）であり、倦怠感の改善が 1 件（Orsak 2014）、リラクセス効果が 1 件（DiScipio 2016）であり、その他は、穏やかな最期であったが 1 件（Bullock 1997）、Reiki の効果があったとはいえないが 3 件（Potter 2007, Catlin 2011, Andrea 2017）であった。16 件中の 7 件が、複数の主観的症狀が改善したと報告していた。

Reiki の施術者については施術者のレベル、受講したトレーニングの形式、経験年数、複数で施術する場合の方法、手技、研究に対する協力体制など記載されている論文は少なかった。

5 . 考察と今後の課題

国内文献では、医療における「レイキ」の活用の意義や効果について述べている殆どが国外文献の引用であった。国外文献では、クリニックや病院などの医療機関において、様々ながん患者に対して症状緩和のために「Reiki」が施術されているがその効果は明らかにされていなかった。その要因には、施術者の質が異なることや、施術環境が適切でないことが考えられており、結果に影響を及ぼす可能性が示唆された。エネルギーセラピーの場合エンドポイントを主観的評価のみならず客観的指標におくことが課題であり、「Reiki」施術者の質の確保が効果に影響を及ぼすことも考えられる。ルース(2014)は「Reiki 研究(国外文献)」の殆どは、小規模でランダム化されておらず都合のよいサンプルを用いているため、研究成果の信頼性と一般化に対する疑問が生じると指摘している。今後、「レイキ」のがん患者への活用を目指すには「レイキ」の安全性も示す必要がある。しかし、エネルギー療法という可視化が容易ではない「レイキ」の効果を明らかにする為には、研究モデルの構築や客観的・主観的な評価視点を明らかにして臨床研究に着手する必要がある。

最近の報告では、「軍事医療施設において慢性疼痛のある患者へ Reiki を教育し、Reiki (30 分間) を 2-3 週間以上 6 回施行した結果、22 項目のうち 12 項目に効果が見られた。その中でも疼痛、疼痛、激痛などの慢性疼痛が軽減し、疼痛により障害される日常生活の改善がみられた（Melisa 2020）」や「入院患者 1,278 名へ Reiki を 20 分間施術し、施術前後で症状スコアの平均値が 5.52 から 2.25 へ下がった。この結果は、Reiki により痛みや不安、不眠、吐気を軽減できたという過去の文献結果と一致した（Priscilla 2020）」と述べている。

国外文献では、今なお医療の現場における「Reiki」の活用や効果に関するエビデンスを提示しようと、医療現場において多様な方法を取り入れたり対象者数を増やしたりして研究を継続している。今後は、日本でも「レイキ」の効果を客観的に示す指標を明らかにした上で、調査を実施し本研究を継続させていきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

| |
|--|
| 1. 発表者名 テイラー栄子、杉山智江 |
| 2. 発表標題 がん患者へのレイキ活用に関する海外文献における研究動向 |
| 3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 杉山智江、テイラー栄子 |
| 2. 発表標題 過去20年間の国内文献からみた補完代替医療における「レイキ」の位置づけ～がん患者への活用を目指して～ |
| 3. 学会等名 第36回日本看護科学学会学術集会 |
| 4. 発表年 2016年 |

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|--|--|----|
| 研究協力者 | テイラー 栄子 (Taylor Eiko) (90751818) | 東京医療保健大学・立川看護学部 看護学科・講師 (32809) | |
| 研究協力者 | 飯野 由佳子 (Iino Yukako) | | |